

★学校の教育目標	○自主・自律の精神を養おう ○思いやりのある豊かな心を育てよう ○心身ともに健康な身体をつくろう	★重点計画の概要
★目指す学校像（ビジョン）		中学校の3年間は子どもたちの「幸せの基盤」をつくる大切な時と考える。その3年間を支える学校として昨年度より、日野市第4次学校教育基本構想に基づいた4つのプロジェクト(①プロジェクト「学びの変革」②プロジェクト「安心できる学校」③プロジェクト「自身の道を拓く」④プロジェクト「教職員の挑戦」)に取り組んできた。そのうち、今年度は②「安心できるプロジェクト」に重点を置きながら、「「こころ育む『学びの広場』日野二中」プロジェクト」として発展させることとした。生徒が互いに学び合う授業となるよう指導法の工夫改善に取り組むとともに、生徒の自己肯定感・自尊感情を高める取り組みを充実させる。
【目指す生徒像】	・正しい判断ができる生徒 ・自主的に行動する生徒 ・思いやりの心ある生徒 ・ひたむきに努力する生徒	
【目指す学校像】	・安全で安心できる学校 ・活発な学校 ・切磋琢磨する学校 ・変化へ対応できる学校	
【目指す教師像】	・授業で勝負する教師 ・心の教育を推進する教師 ・愛情のある対応をする教師 ・連携を基深とする教師	

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	「主体的・対話的で深い学び」の実践	◎「主体的・対話的で深い学び」を実現させるため、自己の学習活動の振り返りや意見交換、議論などを取り入れた指導方法を工夫する。 ◎各教科や領域、特別活動など、教科を横断して発揮できる資質・能力の育成を図る。	①ユニバーサルデザインの視点に基づいた授業を実践する。 ②意見交換や議論の場を、学習活動の中に必ず設定するようにし、アウトプットの機会を確保する。 ③単位または一単元学習の最後には振り返りの時間をとって、生徒が自らの学びを把握できるようにする。 ④校内研究では教科を横断した分科会を設置し、教科横断的な資質・能力の育成により注視した組織づくりを行う。	4	「主体的・対話的で深い学び」に関する授業改善に取り組んだ教員が80%以上	4	生徒アンケートで、「言語活動」に関する質問項目で肯定的回答が80%以上	・生徒たちが自主的に発言したり、意見交換ができる環境だと思う。引き続き、良いところを伸ばす指導をお願いしたい。 ・「生徒の学びの成果を可視化」について、難しいところではあると思うが、ぜひ今後も研究を進めてほしい。	具体的な方策の徹底により、指導改善が着実に進んでいる。今後は、対話や振り返りの「質の向上」と教科横断の具体化を図る。校内研究の成果を授業計画へ確実に反映させるとともに、生徒の学びの成果を可視化する手法について研究することで、次年度のさらなる授業改善に繋げる。
				3	「主体的・対話的で深い学び」に関する授業改善に取り組んだ教員が65%以上	3	生徒アンケートで、「言語活動」に関する質問項目で肯定的回答が65%以上		
	個別最適な学びの構築	◎生徒一人一人の学習における課題を適切に把握するため、指導規準と評価基準を明確化することで指導と評価の一体化を図る。 ◎ICT機器を効果的に活用し、生徒が自分に合った学びの方法を構築できるようにする。	①学習の目標と評価基準を明確化し、生徒と共有することで指導と評価の一体化を確実にする。 ②全教科を包括する探究的で深い学びに関するルーブリック評価を研究し、実践に生かす。 ③一人一台端末を効果的に活用するとともに、生徒が目的に応じて必要な機能を、自己選択する機会を多くする。 ④生徒の「学び方」に対して適切な評価や助言等の声掛けを実践し、教員が生徒の学びをファシリテートする。	4	指導と評価の一体化と授業改善に取り組んだ教員が80%以上	4	生徒アンケートで、「学びに向かう姿勢」に関する質問項目で肯定的回答が80%以上	・一人一台の学習用端末を活用しての授業など、適切に行われていると思う。 ・中学生という発達段階を鑑みると、学習のやり方に悩む時期でもあると思う。個人に合ったアドバイスをお願いしたい。	評価に関する研究は現在進行中（2年間の研究のうち1年）であるため、今後は事例を積み重ね、その成果を共有することが不可欠である。教員が指導と評価の一体化を実感できるよう、ICTを用いながら具体的な手法を組織的に確立し、教員間の指導力向上と平準化を図る。
				3	指導と評価の一体化と授業改善に取り組んだ教員が65%以上	3	生徒アンケートで、「学びに向かう姿勢」に関する質問項目で肯定的回答が65%以上		
みんなの多様な学びとあわせをつくる	心の教育の充実	◎人権教育及び心の教育の充実を図り、多様性を認め合い、望ましい人間関係を築き、自己肯定感や自己有用感を育む。	①「考え、議論する道徳」を全校級で取り組む「全校道徳」を実施する。 ②対話と傾聴を基本にして、少しの変化も見逃さず賞賛するなど、生徒の自尊感情・自己肯定感を高めるとともに、予防的生涯指導を実践させる。 ③アンガーマネジメントの手法を取り入れる。 ④「いじめ防止対応チーム」や「不登校対応チーム（FCT）」など、喫緊の課題については組織的に対応する。	4	多様性への理解を背景に、生徒の豊かな心の醸成に取り組んだ教員が80%以上	4	生徒アンケートで、「自尊感情」に関する質問項目で肯定的回答が80%以上	・道徳授業地区公開講座では、生徒一人一人がよく考え、しっかりと意見が言える良い授業だと思った。 ・まずは自分を大切にしつつ、他者をも大切にすることを育ててほしい。	人権尊重の意識と安心できる教育環境が学校全体に定着しつつある。引き続き、対話と傾聴の基本姿勢を継続しながら、賞賛や励まし等の個別に応じた支援を行い、生徒同士が互いの良さを認め合い、主体的に多様性を受容し合う集団づくりを進めていく。
				3	多様性への理解を背景に、生徒の豊かな心の醸成に取り組んだ教員が65%以上	3	生徒アンケートで、「自尊感情」に関する質問項目で肯定的回答が65%以上		
	特別支援教育の充実	◎特別支援教育コーディネーターを中心に校内委員会の機能を充実させ、特別支援教育の支援に立った教育の質を向上させる。	①リソースルーム、ステップ教室との連携をとり、生徒の特性に応じた指導を実践する。 ②学校行事等を中心に通常学級と特別支援学級との交流を図るとともに、生徒の実態に応じて日常的な交流も計画的に取り入れていく。 ③校内特別支援委員会を機能させ、SCやSSWとの連携の強化を図る。 ④「ひのスタンダード」の徹底を図る。	4	生徒の実態を把握し、適切な指導に取り組んだ教員が80%以上	4	生徒・保護者アンケートで、「学校での生活のしやすさ」に関する質問項目で肯定的回答が80%以上	・特別支援教室はとても評判が良い。年々生徒数が増えている。保護者からも「二中は手厚い」との感想を伺ったことがある。保護者にとっても、安心して生徒を預けることができる学校であると、評価している。	支援の効果を生徒が十分に実感するまでには至っていない。今後は通常と特別級の交流の質を高め、生徒同士が特性を相互に理解し合える環境づくりを強化する。「ひのスタンダード」を継続しつつ、SC・SSW等の専門的助言を指導計画へより反映させ、生徒一人一人に応じた支援の充実を図る。
				3	生徒の実態を把握し、適切な指導に取り組んだ教員が65%以上	3	生徒・保護者アンケートで、「学校での生活のしやすさ」に関する質問項目で肯定的回答が65%以上		
社会と未来に開き、みんなで作る	キャリア教育の充実	◎外部人材を活用したり、学校行事の活性化を図ったりするなどし、社会に貢献できる人材を育成する。	①主体的な進路選択に生かせるよう、情報活用能力を生かす場面を計画的に取り入れる。 ②有識者を積極的に招聘し、生徒が様々なキャリア・モデルに触れることができるようにする。 ③小学校と連携し、9年間の繋がりを重視させる。 ④キャリア教育のまとめとして学習発表会を実施し、生徒が自立的に学びの成果を発揮する機会を設定する。	4	教育活動全般でキャリア教育に取り組んだ教員が80%以上	3	4 生徒アンケートで、「将来設計」に関する質問項目で肯定的回答が80%以上 3 生徒アンケートで、「将来設計」に関する質問項目で肯定的回答が65%以上 2 生徒アンケートで、「将来設計」に関する質問項目で肯定的回答が50%以上 1 生徒アンケートで、「将来設計」に関する質問項目で肯定的回答が50%未満	・全校道徳では、パラリンピックの選手を招聘したり、オンラインを活用して栗山監督のお話が聞ける等、生徒にとって貴重な経験になったことと思う。 ・職場体験は、地域の人や学校以外の社会に触れる機会である。実体験を通して、将来の進路選択に生かしてほしい。	キャリア教育の取組が「自身の将来」と結びついている実感が不足していることが考えられる。有識者との交流や学習発表会において、ICTを活用しながら事前・事後学習をさらに充実させ、生徒一人一人が自身の進路選択へ具体的に還元できる仕組みづくりを整えていく。
				3	教育活動全般でキャリア教育に取り組んだ教員が65%以上	3	保護者アンケートで、「特別活動」に関する質問項目で肯定的回答が80%以上 3 保護者アンケートで、「特別活動」に関する質問項目で肯定的回答が65%以上 2 保護者アンケートで、「特別活動」に関する質問項目で肯定的回答が50%以上 1 保護者アンケートで、「特別活動」に関する質問項目で肯定的回答が50%未満		
	特別活動の充実	◎学級活動や生徒会等を通して、一人一人の個性の伸長を図り、集団の一員としての自覚と望ましい集団活動における実践力を養う。 ◎学校行事等における体験活動を通して、自発的に行動する態度を養うとともに、集団の一員としての自覚をもたせる。	①キャリア・パスポートを活用し、生徒が自分自身の変容や成長を自己評価する機会を確保する。 ②学校行事等においては、担当教員が学級や学年集団を意図的に価値付けすることで、学級・学年の絆づくりの取組を促進させる。 ③不登校対応巡回教員を活用しながら、校内別室を基本的には毎日開設し、効果的な運用を図る。 ④いじめなどの問題に関しては、生徒同士が話し合う機会を設け、自治の精神の育成を図る。	4	生徒の主体的、表現的な活動を支援できた教員が80%以上	4	4 保護者アンケートで、「特別活動」に関する質問項目で肯定的回答が80%以上 3 保護者アンケートで、「特別活動」に関する質問項目で肯定的回答が65%以上 2 保護者アンケートで、「特別活動」に関する質問項目で肯定的回答が50%以上 1 保護者アンケートで、「特別活動」に関する質問項目で肯定的回答が50%未満	生徒の帰属意識と安心感の向上を図ることができた。今後は、教員による価値付けを土台としつつ、生徒が課題発見から解決までを主導する場面を増やすことで、自治の精神をさらに高め、実践的な集団行動力を深化させる。また、キャリア・パスポートの活用によりさらなる意欲向上を図る。	
				3	生徒の主体的、表現的な活動を支援できた教員が65%以上	3	保護者アンケートで、「特別活動」に関する質問項目で肯定的回答が65%以上		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。